



中学校くすの木学級 宿泊訓練

8月18～19日(日・月)1泊2日の宿泊訓練が行われました。活動を通して社会規範の基礎を培い、自らの能力に挑戦する態度を育成するという目的で実施されました。

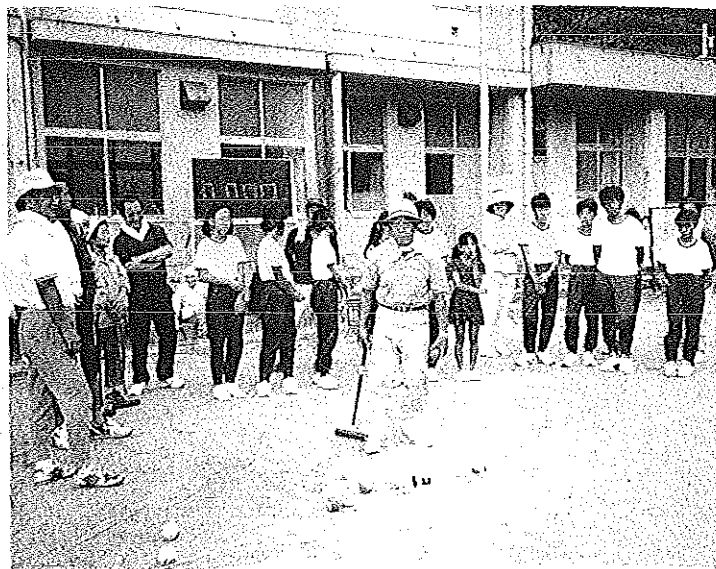
生徒たちは、ペットボトルを材料にロケットを作製し、水ロケット飛ばし大会を開いたり、槌を作ってローメン流しをしたり、カッターを漕いで五つ島へ行ったり…と、充実した2日間を過ごしました。

この訓練で学び取ったことが、どのように反映されるか、2学期以降が楽しみです。

親子ふれあい奉仕活動

9月1日(日)夕刻に中学校グラウンドにて実施されました。草刈り作業・三世代交流ゲートボール大会・懇談会と夜おそくまでお付き合いいただきまして誠にありがとうございました。

この行事を通して両親、地域の方そしてお年寄りの方のご熱心な働きぶりを身近で見させていただくことができました。お蔭さまで中学生も勤労の尊さを知ることが出来たと思います。心から感謝申し上げます。



能古十人墓供養祭

去る9月1日、能古島十人墓を守る会からの招聘により会長以下6名が新幹線やバス渡船を乗り継ぎ関係者に迎えられ定刻3時に能古永福寺に参詣、最初に墓の由来を掘り起こされた郷土史家高田先生から山口県文書館の御蔵本日記(徳山藩記録)からの史実説明があった。それによると筑前能古島の千六百石船頭太郎治、加子19人共20人乗りが大阪ひた屋の「すほん」3, 350本を積んで大津島沖に停泊中9月2日の昼7つ時(午後5時)大時化になり6丁の錨を入れたが帆柱が折れ流されて沈んだ。大津島では早速救助活動を始めたが10人を救助し残りの10人の遺体を収容したのは6日であった。事の次第は筑前に早飛脚で知らされた。その間船頭の頼みで浜に埋葬し流失物を収集、大阪のひた屋から手代と筑前から二千石船で船頭百藏が来島しすべての事後処理を終え帰国したのは10月7日であったのが概要。……

つづいて詠歌、読経と懇親会で旧交を温め意義のある供養祭でありました。

数多い遭難の中で手厚く回向されているのは十人墓のみと云うことで情に絆されると同時に子孫が判明しないながらも能古島をあげて先祖の供養をされる心情に心うたれながら晩夏の能古を後にしました。(中濱 末喜)



消防サイレンの設置

このほど、近江・瀬戸浜地区の消防機庫側にそれぞれ消防サイレンが取り付けられました。今まで無かったために火災等での通報体制が心配されていましたが、これでこの様な不安が解消されました。

大津分団では近々に団員等に取扱説明会を開催することになっています。